







真言宗中尾山十三寺の仏像

当寺には、富山県指定の文化財である三体の仏像がある。

中尊の千手観世音菩薩立像は、京都の清水寺の本尊と同じ様式（清水型）で造られている。また、馬頭観世音菩薩立像は、下に向けて合掌しており、他に類例を見ない。仏像は杉の一木で造られており、奈良時代の名僧「行基」の作と伝えられているが、平安時代後期の作風を残す鎌倉時代の仏像である。

戦国時代、舟見城主「飛騨守五郎左近尉」の守護仏であったが、上杉勢の進攻により落城し、山中に埋もれた。宝暦十一年（一七六一）明日山法福寺の清智坊が、夢のお告げでこのことを知り現地点に安置したと言われている。

指定年月日 昭和三十九年一月一日

富山県教育委員会
文化財教育委員会





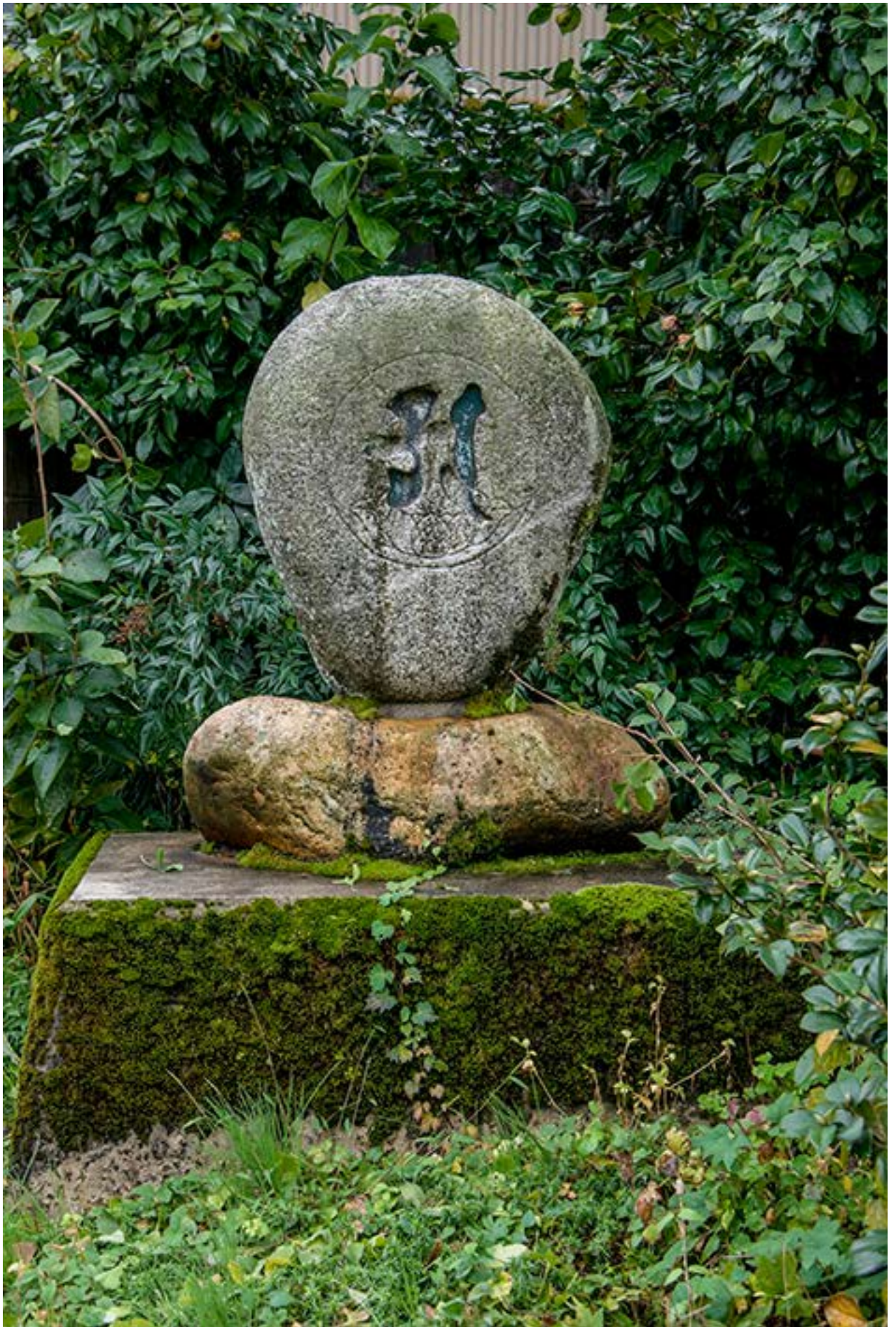






























舟
米田甚次郎
國枝之助





























































